

「ロマントピア藤原京'95」に伴う特別展示

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

藤原京遷都1300年を記念する橿原市主催の「ロマントピア藤原京'95」博が、1995年3月29日から5月21日までの54日間、藤原宮大極殿跡周辺を主会場として開催された。期間中、天候不順によりたびたび降雨にみまわれたものの、目標の35万人を大きく超える約63万人の入場者があった。藤原宮・京跡の発掘調査にたずさわる当調査部においても、これまでの調査研究の成果を広く一般に公開し、特別史跡藤原宮跡の顕彰をはかる好機ととらえ、協賛特別展の開催や藤原京1000分の1復元模型（橿原市製作）の監修などで、このイベントに参加協力した。以下、特別展の概要を紹介する。

当調査部では、従来より資料室を設け、藤原宮・京関係の調査成果を公開展示してきたところである。今回はこれに加え、最新の発掘データを駆使して、さまざまな角度から藤原京の実像に迫ろうと、特別展「1300年前の首都・これが藤原京だ！」を企画した。会場には、講堂を一部臨時的に改造し、これに当てることとした。

展示にあたっては、会場の中央に「藤原宮南面中門（朱雀門）10分の1復元模型」を置き、その周囲に以下の11のコーナーを設けた。①南面中門の復原、②初めての都作り、③都の大きさをくらべる、④藤原京のモデル、⑤藤原京のひろがり、⑥条坊と人びとの暮らし、⑦藤原宮・京を平城宮・京とくらべる、⑧都に咲いた二つの蓮―薬師寺と大官大寺―、⑨都市問題の始まり―トイレはどこだ!?, ⑩都のハイテク技術、⑪死後のすみか、がそれである。今回の展示では、とくに常設展示において説明が不足している「中国都城との比較」や「藤原京の範囲」「トイレ遺構の調査」「金属・漆・ガラスの加工技術」「埋葬地」などについて、最新の研究成果を重点的に紹介するよう努めた。

展示品の中心となる「藤原宮南面中門10分の1復元模型」は平城宮朱雀門の復元模型を利用し、建物本体はそのままに、門の両脇にとりつく築地塀を一本柱の土塀に作り替え、藤原宮の宮城門とした。そのほか「藤原京跡出土の土器・富本銭・木簡・土馬」「本薬師寺・大官大寺出土の軒瓦・飾り金具類」「藤原京右京七条一坊トイレ遺構の土層はぎ取り」「飛鳥池遺跡のガラス・金属・漆工房関係出土品」「威奈大村骨蔵器（模造）」などを展示し、あわせて特別展の解説パンフレットを刊行した。なお期間中、延べ30,131人の入館者（大会本部調べ）があった。

（黒崎 直）



南面中門復元模型の展示